

地域創造政策

シンクタンクと地域創造政策

2006. 12. 19

(株)日本開発研究所三重 吉田 昌弘

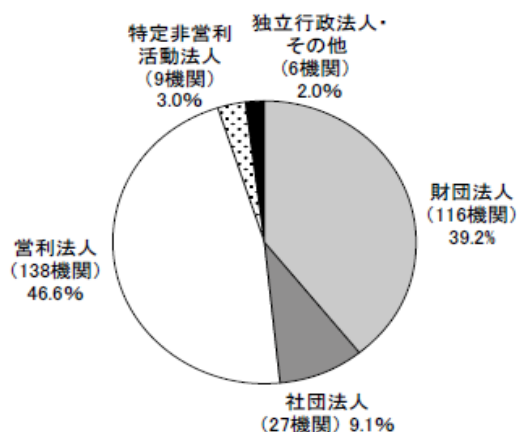
1. シンクタンクにもいろいろある
2. 地方シンクタンクと自治体との関係
3. 地方シンクタンクの役割
4. 自治体の政策形成や地域づくりへの関わり方 (いくつかの事例)
5. 町医者としての地方シンクタンク
6. 地方シンクタンカーはドクターコートをめざす

1. シンクタンクにもいろいろある

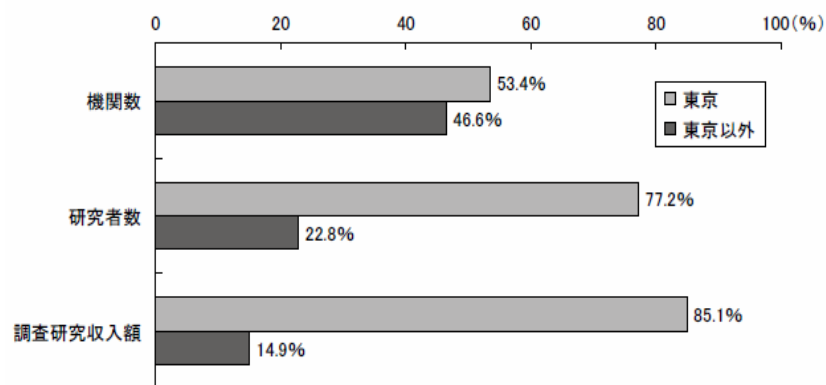
(1) シンクタンクの動向 (NIRA シンクタンクの動向 2006 より)

- ① 様々な専門分野 (国土開発・利用、経済、産業、科学技術、環境問題、国民生活、福祉医療…)
- ② 組織形態 (財団法人 39.2%、社団法人 9.1%、営利法人 46.6%、非営利法人 3%…)
- ③ 6割程度が首都圏、研究員数だと8割程度が首都圏に集中
- ④ 自主研究が2割程度で、受託研究が7割5分

図：組織形態別内訳



図：東京の集中度



(2) 地方では、市が設置するシンクタンクが増えてきている

- 大手総合型／銀行系／大手企業系／自治体系／コミュニティシンクタンクなどがある
- 近年増える地方自治体系シンクタンク
→ 2000年 上越市創造行政研究所、2000年 小田原市政策総合研究所、2002年 横須賀市都市政策研究所
2003年 さがみはら都市未来研究所、2003年 みうら政策研究所
- 市が設置するものが増え、県が設置していたものが減ってきている

2. 地方シンクタンクと自治体との関係

(1) 自治体とは委託関係

- 主に、計画策定のための基礎データの収集・分析・整理、策定手法の提案・指導、アンケート調査等の世論調査や実態調査、審議会・委員会等の事務局運営の支援などを委託されることが多い

(2) ノウハウ提供と調整役（あるいはその企画・指導）を期待される

3. 地方シンクタンクの役割

(1) これから地方シンクタンクがリードしていくべき領域

『地域をしっかりと見続け、柔軟にコーディネートする』

- 分権型社会の形成において地方シンクタンクが力を発揮する
- 政策過程すべてにわたって市民との協働が必要
- 「シカケ」と「シクミ」を協働関係のなかで創り出すことが、今、必要な時

(2) 地方シンクタンクに期待される役割

- 『つなぐ』…住民と行政、行政や住民と専門家、住民と住民、自治体と自治体をつなぐ
- 『翻訳する』…住民にわかりやすい言葉、デザインに翻訳する
- 『仕掛ける』…「シカケ」と「シクミ」を提案し、自らも実行する
- 『物語る』…地域を見つめ、地域の取り組みを物語り、共感を興し、良い循環をつくる

4. 自治体の政策形成や地域づくりへの関わり方（いくつかの実践事例）

(1) 地域資源を生かし、地域の協働を育みながら自治力を高める

【事例1】松阪・紀勢生活創造圏づくり

- ◆ 1998年～2002年／活動は現在も継続中

【事例2】東海道を軸にした一連の地域づくり／東海道関宿のまちづくり

- ◆ 1990年～現在

(2) 自主的な地域の活動をサポートする、あるいはその機会を生み出す

【事例3】歴史的文化的資産保全活用推進員

- ◆ 2004年～現在

【事例4】三重県e-デモ会議室

- ◆ 2002年～2003年

【事例5】四日市市橋北地区まちづくり計画

- ◆ 2004年

(3) 自ら「シカケ」と「シクミ」づくりに赴く

【事例6】三重県社会資本整備協働推進条例（仮称）

- ◆ 2003年～現在

【事例7】津市げんき大学

- ◆ 2006年～

5. 町医者としての地方シンクタンク

(1) 地域政策に決まった方法はなくなってきた

- 地域政策に定石はなくて、一つ一つを地域に合わせて臨機応変に解いていくしかない

(2) 求められる町医者的な地域との密着度と臨機応変さ

- 地域によって診察、診断、治療の方法も変わってくるべきで、まずは、そこにおいて、事情をしっかりと認識し、臨機応変に柔軟に対処することが求められる

6. 地方シンクタンカーはドクターコトをめざす

(1) 地域にすることがまずは重要な役割

- 地域との信頼関係が、地方シンクタンクの必須条件
- 様々な場面に一緒にいることも、重要な役割
- 必要なら、それを行政に訴えて制度化したり、自ら取り組んで大きな成果を示すことが必要
- 『地域に根付いて見守り続け、柔軟にコーディネートし』ながら、地域に応じた自立の道とともに歩んでいくことがこれからの大切な役割だ

(2) 自分の首を絞めながらも、地域とともに将来の自己変革をめざす

- 知的業務の調達を入札で決めるという、およそ考えられない状況があり、業務として継続性を確保することがまず難しい
- 民間の地方シンクタンカーは、実は自分の首を絞めながらコンサルティングをしている
- 行政職員の能力や、地域自治組織のエンパワーメントの向上や、市民専門家、市民コーディネーターが育ってくるにしたがい、提供するものが変わっていかなくてはならない
- めざすは「ドクターコト」のように、いつもそこにおいて、事情をしっかりと認識し、みんなの力を上手に結集して柔軟に対処することを基本におきながら、住民には不可能な最先端の最高の技術で支援することが私たちの役割だ